

## 令和6年度 用賀地区

それでは、「用賀地区の概要と特色」から報告します。用賀地区は約2km×1kmの長方形で2.4k m<sup>2</sup>、人口約37,100人で、人口、面積ともに9番目の地区です。高齢者人口は約7,600人で高齢化率は20.4%です。地理的には国分寺崖線の上側で玉川地域の北側に位置します。上用賀公園など15の都市公園のほか、馬事公苑や農地、民有地の緑も多くあります。耕地整理により碁盤の目のように整備された条通りと呼ばれる道路がある良好な住宅地を形成しています。世田谷通り、環状8号線、国道246、首都高・東名などの主要道路へのアクセスが容易で、公共交通は管内の中心南側に東急田園都市線の用賀駅と駅を基点にしたバス路線があります。一方、南北の公共交通機関がないことやバス路線の廃止、減便などの課題もあります。駅周辺は商店街とランドマークの世田谷ビジネススクエア(GMOインターネットTOWER)があり、商業施設の集約されたビジネス街の様相を呈しています。隣接する用賀くすのき公園は世田谷美術館につながる用賀プロムナード「いらかみち」の起点で、商店街や地区のイベントなども開催され地域コミュニティ醸成の場となっています。管内には区立小学校3校と中学校1校のほか、図書館、区民センター、区民集会所、地区会館、上用賀アートホールなどの施設もあります。

次に、用賀地区の地域包括事業の概要をお話しします。用賀地区の四者連携会議は、福祉の相談窓口である「まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会地区事務局」、管内にある「上用賀児童館、玉川台児童館」の2児童館に加え、「地域障害者相談支援センターばーとたまがわ」、世田谷ボランティア協会の「玉川ボランティアビューロー」にも参加していただき毎月定例会を開催しています。会議では、連携事業の進捗状況の共有や地区課題の共有・解決に向けた取り組みの検討、地区内での具体的な困りごとの情報共有と意見交換、各団体の活動状況の共有なども行っています。主な連携事業として、活動状況を発信する「ささえあい通信」の発行、「出張相談会」、「ちょこぐりLABO」、「スペース2020」、「健康貯金スタンプラリー」、「子育てファミリーのリフレッシュ Day」などを行っています。新たな取り組みとして、地区や地域の人のために何か活動をしたいが、一歩踏み出せずにいる元気な高齢者の方々と地区の課題解決を結びつける仕組みづくりの最初の取り組みとして、ボランティア活動の担い手が交流する「チーム支えあい用賀座談会」を今月16日に開催しました。この取り組みは今後さらに進めていく予定です。

ここで、用賀まちづくりセンターのオリジナルキャラクター「よ～よ」を紹介します。「よ～よ」は、令和3年度の地域包括の地区展開活動で生まれました。馬事公苑にちなんだ「馬」をモチーフにしたイラストを、上用賀児童館と玉川台児童館の子どもたちから募集しました。応募があったイラストから投票の結果、最も人気を集めたデザインをもとに作成されました。「よ～よ」という名前も、児童館の子どもたちから募集した候補から、投票で決定したものです。みんなで参加し「よ～よ」、協力し「よ～よ」という意味が込められています。地区青少年事業でも「用賀で『パフォーマンス』をみよ～よ」や「用賀で『ポッチャ』をしょ～よ」などとイベントの名称にも使用しています。地区の広報誌や「福祉の相談窓口」PRチラシ等でも活用しています。今後さらに、シールやぬいぐるみなど、地区事業PR用のオリジナルグッズの作成も進めていきます。

本日の活動報告では連携会議の参加団体が協力して取り組んでいる様々な事業活動のうち「健康貯金スタンプラリー」、「子育てファミリーのリフレッシュ Day」と「スペース2020」について、

連携して活動している皆さんから紹介していただきます。

あんしんすこやかセンターから「健康貯金スタンプラリー」について報告させていただきます。まずは、スタンプラリーを始めた経緯についてです。コロナ禍の閉じこもり予防の課題から、うまれました。最初は、あんすこのみでスタートしましたが、その後、五者での取り組みとなりました。年1～3回のペースで開催しています。こちらのチラシは、今年度開催した四国お遍路『靈山寺(りょうぜんじ)大宝寺編(だいほうじへん)』のものです。40名以上の方が参加されました。スタンプラリーの基本についてです。スタンプラリーが目指すもの、参加者にとって良い参加者の健康増進、地域にとって良い地域事業の活性化、五者にとってよい事業の推進、新たな展開、連携体制の構築、地域包括ケア、地域共生社会の実現に繋がります。

こちらは、事前登録会の様子です。まずは、参加登録してスタンプカードをもらいます。ステーションの中から1か所を選び、1日に1個だけ押せるルールです参加者は主に高齢者ですが、どなたでも参加 OK。未就学のお子さんとお母様が参加されたこともありました。

こちらは、今年度開催したスタンプラリーカードです。裏面は、地域住民の方に作品提供をいただきました。スタンプラリーの進め方について説明いたします。好きなスタンプステーションに行きスタンプを押します。スタンプを集めます。スタンプカード達成枚数に到達したら、表彰式・交流会に招待させていただくことにしています。2-3 日に1個押したら達成できるくらいの目標にしています。障害・高齢・子ども関係・公共施設・消防署・銭湯など用賀地区で10 か所以上の施設などにスタンプステーション設置のご協力を頂きました。挨拶を交わすだけでなく新たな交流も生まれています。スタンプラリーで出来ることについてです。まずは、自己実現する場の創造・提供です。例として次のようなことが挙げられます。

- ・高齢者サロンなどで作った作品をラリー達成者への記念品として進呈し作品が喜ばれたことが、励みになった。
- ・福祉作業所の利用者に、表彰式の会場ボランティアスタッフを担ってもらい、交流や活動の場ができた。
- ・「ボランティア登録したが活動場所がない」など声が挙がりました。高齢者ボランティアに対し、イベント等でボランティア活動の場を提供しました。
- ・スタンプラリーカードのデザイン、イベントの参加、作品の掲示等、自分の強みを生かした活動が、誰かに喜ばれる。

次のスライドからは、参加者の様子や笑顔を見ていただければと思います。参加者の中から作品展示をしたい方を募りました。作品の展示の様子です。宿題コーナーを設けています。防災に関するクイズや子どもたちが考えてくれたクイズを用意し、週1回更新しています。児童館とコラボし、昔遊びを高齢者と子どもたちが一緒に遊びを楽しむイベントを行いました。障害のある方たちに、レクチャーをいただき、地域住民とボッチャイベントを開催しました。好評だったため、認知症カフェでも開催しました。障害のある方が、製作した作品を展示。「次のステップに踏み出すことができ希望を持てた」との感想をいただきました。表彰式と交流会の様子です。スタンプラリーは、参加者の健康推進(介護予防)を目指しています。また、交流会やイベントを通じて、参加者の交流機会となっています。SNS などを通じて、定期的な情報発信を行っており、新たな参加者が増えることに繋がっています。

五者が協働することで得られるものとしては、

- ・連携して取り組む経験や実績を積むことができる。何に取り組むのか？を話しあうのではなく、今あるものを活用する。連携の経験やノウハウが得られる、他の五者連携事業に生かすことができます。
- ・連携事業所の業務内容や強みなどを理解することができました。
- ・五者それぞれがもつ地域資源情報を共有でき、それぞれの事業で活用することができています。

スタンプラリーで出来たこと、参加いただいた方の笑顔で終わりたいと思います。

児童館から、「子育てファミリーのリフレッシュデイ」について報告します。コロナ禍で外出や人との交流がままならなくなり、交流する機会の減少や子育て世帯が気軽に外出できず、相談できる場がないなどの意見が上がっていた数年前。孤立する乳幼児親子がつながり、相談できる機会ができるといいねという話があちこちから出ていました。乳幼児親子が集い、楽しみ、相談できる場をつくろうということで子育てネットワーク検討会で検討し、社会福祉協議会と児童館の共催で「子育てファミリーのリフレッシュデイ」がスタートしました。このようなチラシを作成し参加者を募っています。保護者のためのリフレッシュピラティス。抱っこやおんぶで凝り固まった筋肉をほぐしながら身体を動かし心身ともにリフレッシュ！社協のお守りボランティアのみなさんの協力で、お子さん一人ひとりを丁寧に保育してもらえるので、保護者の方々も安心してピラティスに専念できると大好評。すぐに予約が埋まります。地域で長く読み聞かせをやっているお話会の団体さんがリフレッシュデイでも活躍してくれています。ゆったりとした雰囲気の中、お子さんの様子や表情を見ながら語りかけるように話してもらえるので、親子でお話の世界に没頭できます。おでかけひろばのみなさんが手づくりおもちゃコーナーを担当してくれています。毎回、作ること自体も楽しいし、作ったもので遊ぶのも楽しいという、一粒で二度おいしい素敵なおもちゃを考えてくれているので親子でどっぷり楽しめます。作りながらひろばのみなさんや保護者同士の交流ができる場所も魅力です。乳幼児専用室でいつものように親子で遊びながら気軽に相談ができます。保育園の園長先生による入園相談、健康づくり課の保健師さんによる発達や生活全般の相談、ファミリーサポートの登録などいろんな相談ができます。込み入った相談がしたい人には別室で個別相談も行っています。この日に来ればどんな相談もできるからうれしい！という声も聞かれています。リフレッシュデイには他にもベビーカー置き場でベビーカーをきれいに並べてくれるボランティアさんなど、たくさんの方に支えられてできています。子育て支援をサポートしている団体が集まって地区の子育てを全力で応援するイベントになっています。今後もみなさんと協力し、バージョンアップしながらよりよいものにしていきます。

社会福祉協議会から、「スペース2020」について報告させていただきます。立ち上げの経緯をご説明いたします。立ち上げに先立ち、地区サポーター懇談会を開催し、意見交換を行うとともに、ぼーとたまがわの支援内容を学びました。地区サポーターより、地区内では精神疾患の方の居場所がないという意見があがり、精神疾患に関わらず、どなたでも不安な気持ちを話せる場をつくってはどうか？と検討を始めました。用賀地区は縦に長く、物理的に福祉の相談窓口まで距離が遠い住民が多いため、相談窓口から離れた上用賀6丁目にある「デイホームふきのとう」で、お気軽相談会を開催しました。そこでも参加者のお一人から精神疾患があり、ひきこもっている

40代男性が「家族以外に話せる相手がいない」、「働いていないと社会や地域の中に居場所がない」と相談がありました。居場所づくりのために開催場所の開拓、人材の募集をまず進めました。開催場所については、地区内の就労支援施設さわやかはーとあーす世田谷に協力を仰ぎました。人材については、地区サポーター懇談会に参加した方や傾聴ボランティアが経験のある方を中心に募集を図りました。居場所の立ち上げに向けて、地区サポーターとこれまでの経緯や相談会での「精神疾患がある息子の居場所がない」という声があったことを共有しました。決起集会では場所づくりへの思いの確認と他の居場所づくりの事例紹介を行いました。

そして、町会や民生委員、まちづくりセンター、ぽーとたまがわ、あんしんすこやかセンターなど地区活動を行っている団体、専門機関にも加わってもらい、スペース2020検討会を立ち上げました。検討会ではこれまでの居場所づくりの経緯の説明、名称・開催周知方法の検討を行いました。居場所の名称は「スペース2020」に決定し、チラシは絵が得意な民生委員による手作りで作成されました。また、検討会では勉強会として長く居場所づくりに携わっている方を講師にお招きし、運営の注意点ややりがいなど学ぶ機会を作りました。プレ開催に向けて、どのような方たちに周知すればよいか、当日の対応する際に気を付ける点など共有しました。プレ開催は、さわやかはーとあーす世田谷のカフェスペースをお借りしました。他のカフェ利用者と混ざってお話できたことで温かい雰囲気の中実施できました。児童館よりお借りしたボードゲームを使って、交流もできました。コロナ禍を経て、スペース2020は毎月第3木曜日に開催しています。定期参加者も増え、参加者同士の交流も生まれています。個別でお話希望の方は地区サポーター、関係機関の職員とお話し、近況や相談事をじっくり伺っています。参加者同士で交流をしたい方はグループでお話をします。隣同士でお話されたり、グループの方のお話を皆で聞いたりもします。昔の話や最近の出来事など楽しくお話されます。終了後はスタッフ間でその日の参加者の様子を共有します。気になる様子の方がいれば、専門職へつないだりもします。また、次回開催時の受け入れ注意点などの話し合いも行います。

これまで参加された方の参加のきっかけを一部ご紹介します。ひとつめは、認知症のある妻を介護している夫、ご夫婦でスペースに2020に参加されています。夫婦で参加できる場として、息抜きができる機会となるように参加されています。夫も気分転換ができており、妻もスタッフとの交流を楽しみにしてくださり、息抜きができる機会になっているようです。ふたつめは、自閉症、統合失調症のある方が体調を整えるため、定期的に話せる場へ参加したいという希望があり、参加されました。スタッフとのお話も楽しみにされており、スペース2020が唯一の参加の場となっています。あんしんすこやかセンターやぽーとたまがわと連携を図り、通いの場に参加したいという方がスペース2020に参加できるようになっています。

スペース2020を開催し、取り組んで得られた効果としてはご覧の4点です。

- ・妻の介護をしている夫、夫婦が楽しみながら参加できる場に
- ・心に不安を抱えた方が唯一参加できる集いの場に
- ・ひとり暮らし高齢男性が気軽にお話ができる場となり、参加者同士でも交流が生まれました。
- ・スタッフ同士、連携を図り、参加者の状況を共有することで、支援のきっかけになっています。

今後は、閉じこもりがちな方が住民同士、つながりをもってもらうきっかけとなるように気軽に話してもらえよう関わりの継続に取り組んでまいります。また、参加する誰もが、来てよかったと思

っていただけるよう開催していきます。

用賀地区では、「多世代が交流し、誰もが安心して暮らし続けられる『ささえあい・助け合いのあるまち』を目指して」、取り組みを進めています。今後も福祉の相談窓口、地域包括の地区展開をはじめとする地区の活動を通して、課題の解決に取り組んでまいります。活動報告は以上です。ご清聴ありがとうございました。